

授業科目 慢性期・リハビリテーション看護学

【担当教員名】 新谷 恵子	対象学年	2	対象学科	看護	
	開講時期	前期	必修選択	必修	
	単位数	1	時間数	15	
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○	○	○	
【概要・一般目標：GI0】 慢性期看護では、生活障害に焦点をあて、長期的な疾患を持つ対象に対する生活の変化と療養バランスを保ちつつ最良な健康状態を継続していくことができるよう援助するための理論と方法について学ぶ。さらにリハビリテーション看護では、その人が生活を再構築し、最適生活を営むために必要なリハビリテーション看護のあり方と方法を理解する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 慢性看護学の概念を学び、慢性・長期的な健康障害のある人およびその家族の特性をふまえ、健康維持・増進のためのセルフケア看護アプローチを理解する 2. 慢性・長期的な病をもつ人の生きる意味、病を持つことによる心理的要因を学び、病を支える看護アプローチを理解する 3. リハビリテーション看護学の概念を理解し、リハビリテーション看護が必要な人の特徴を理解する 4. リハビリテーションの必要な人とその家族を支える看護を理解する					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	慢性期看護学の考え方			1	講義
2	慢性・長期的な健康障害を持つ人および家族の特徴（自己概念ほか）			2	講義
3	セルフケアへのアプローチ（セルフマネジメント能力・症状マネジメント・教育的支援・社会資源など）			1.2	講義
4	主な治療と支援（インスリン・人工透析・ステロイド・インターフェロン・化学療法・放射線療法・肝動脈塞栓療法など）			3	講義
5	リハビリテーション看護学の考え方（専門性・倫理的問題・現状と課題ほか）			3	講義
6	リハビリテーションを必要とする人のその家族の特徴（生活機能障害とICFモデルほか）			3.4	講義
7	リハビリテーション看護に有用な概念・理論（QOL・セルフケア・自立・協働など）			3.4	講義
8	経過別のリハビリテーション（急性期、回復期、維持期など） レポート課題：慢性病がもたらす生活上の問題について身近な事例と考察			3.4	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		慢性期看護論	鈴木志津枝	HIROKAWA, MC メディカ	2008・2,520円＋税
		リハビリテーション看護	落合芙美子	メジカルフレンド社	2009・3,700円＋税
参考書		運動機能障害	富重佐智子	HIROKAWA, MC メディカ	2006・3,200円＋税
		呼吸・循環機能障害	深谷智恵子	HIROKAWA, MC メディカ	2006・3,000円＋税
		慢性疾患の病みの軌跡	黒江ゆり子	医学書院	1995・2,835円＋税
その他の資料					
【評価方法】 出席・レポート評価・定期試験による評価 出席 10点・レポート 30点・試験 60点		【履修上の留意点】 授業でできることは限られているので主体的に学習することを望みます			